

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1995年度



1996年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

- 本書は、平成7年度に実施した埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
- 埋蔵文化財調査に係る事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査業務を文化財保護係長橋本孝雄が担当し、生涯学習課長河畠　淳が総括した。
- 本書に収録の調査は、生涯学習課文化財保護係の原田義範・福垣尚美が行った。
- 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力を頂いた。記して謝意を表したい。
(敬称略五十音順)
秋元富雄・愛宕勝典・江尻律子・小西鉄作・佐々木清人・末永幸男・砂原美光・高木千秋・田町範和・橋本三次・原正勝・山内静子・山崎省・山田哲博・伊勢領町内会・(株)小杉給食センター・(株)仲光・富山県高岡土木事務所・富山県高岡農地林務事務所・富山県山田川水系ダム建設事務所
- 調査を実施した遺跡の出土遺物は、小杉町埋蔵文化財整理室で整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
- 本書の編集・執筆は原田が行った。

目　　次

1. 平成7年度の概要	1	鶯塚村中遺跡 (No.7-2)	10
2. 分布調査	3	二の井Ⅰ遺跡 (No.8)	12
3. 試掘調査	4	二の井Ⅱ遺跡 (No.13)	12
加茂社遺跡 (No.1)	5	HS-04遺跡 (No.10)	13
伊勢領遺跡 (No.4)	5	HS-04遺跡 (No.15)	13
三野遺跡 (No.2)	6	HS-04遺跡 (No.11)	14
白石Ⅳ遺跡 (No.3)	6	水上遺跡 (No.12)	14
黒河西山遺跡 (No.5)	7	針原東遺跡 (No.14)	15
黒河竹山遺跡 (No.9)	7	鶯塚村中遺跡 (No.16)	15
中山中遺跡 (No.6)	8	HS-04遺跡 (No.17・18)	16
中山中遺跡 (No.19)	8	4. 本調査	17
愛宕遺跡 (No.7-3)	9	丸山古墳 [No.1]	17
HS-03遺跡 (No.7-4)	9	5. 普及・活用	18
HS-04遺跡 (No.7-1)	10		

*遺跡名右側のNo()が試掘調査、[]が本調査の一覧表の番号を示す。

1. 平成 7 年度の概要

平成 7 年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査 27 件、試掘調査 19 件、本調査 1 件であった。このうち、本調査は前年度に引き続き、民間開発に伴う丘陵部上の占墳調査となった。試掘調査は丘陵部 2 件・平野部 17 件であり、公共事業 4 件・民間開発 10 件・個人住宅 5 件となった。民間開発に伴う試掘調査が年々倍増しており、当町での開発行為が増加している傾向にある。



第1図 調査位置図 (1:25,000)

注: 数字は調査一覧表の番号を示す。



第2図 調査位置図 (1:25,000)

注: 数字は調査一覧表の番号を示す。

2. 分布調査

平成7年度に実施した分布調査は27件であり、うち4件で試掘調査が必要と判断し、開発側への対応としている。周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査で新たに発見された遺跡は新規に登載され、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No.	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	探集遺物	開発への対応
1	黒河字尺目2996-1外	町道551号線建設工事立会	H7.4.11 5.29~30	1,280m ²	黒河西遺跡傍接地	標高約9~10mの水田	須恵器・鉄滓 陶磁器	支障なし
2	三ヶ2731-1	宅地造成	H7.4.24	981m ²	加茂社遺跡内 及川社遺跡傍接地	標高約5mの水田	須恵器・陶器	試掘調査必要
3	三ヶ2443外5筆	店舗建設	H7.5.16	6,060m ²	伊勢須道跡内	標高約5mの水田	壺生土器・須恵器 珠洲・陶器	支障なし
4	戸破3978-1	宅地造成	H7.5.23	986m ²	未踏査地	標高約3mの水田	須恵器・土師器	支障なし
5	鷲塚462	資材置場建設	H7.8.3	1,097m ²	豊坂遺跡傍接地	標高約2mの水田		支障なし
6	下条1302-1	資材置場建設	H7.8.3	1,315m ²	未踏査地	標高約5.5mの水田		支障なし
7	西高木393-1外2筆	資材置場建設	H7.8.3	1,166m ²	未踏査地	標高約0.8mの荒蕪地		支障なし
8	黒河字尺目2739外4筆	個人住宅建設	H7.8.17	789m ²	東山Ⅰ遺跡内	標高約13.5mの畠地	弥生土器 越中瀬戸	支障なし
9	黒河字尺目2972-1外1筆		H7.8.17	877m ²	東山Ⅰ遺跡・東山Ⅱ遺跡傍接地	標高約13.5mの畠地		支障なし
10	下条1205-3外1筆	資材置場建設	H7.8.22	936m ²	赤山東遺跡傍接地	標高約5.5mの水田	弥生土器・珠洲 越中瀬戸・磁器	支障なし
11	黒河字金屋4923-1		H7.8.29	109m ²	東山Ⅰ遺跡・東山Ⅱ遺跡傍接地	標高約16mの畠地		支障なし
12	黒河字尺目3066-1外1筆		H7.8.29	464m ²	黒河尺目遺跡内	標高約16mの畠地		支障なし
13	白石635	販売用車庫置場建設	H7.10.9	735m ²	HS-4遺跡傍接地	標高約1.6mの水田		支障なし
14	下条字大白1936		H7.10.19	55,000m ²	未踏査地	標高約7.5mの水田	弥生土器・須恵器 珠洲・陶磁器	試掘調査必要
15	戸破3223-1		H7.11.15	963m ²	戸破古道遺跡 傍接地	標高約3.5mの水田		支障なし
16	下条1212-2外1筆	資材置場建設	H7.11.29	250m ²	未踏査地	標高約6mの水田		支障なし
17	黒河字金屋837-1外1筆	自動車修理工場建設	H7.12.7	474m ²	東山Ⅱ遺跡内	標高約14mの畠地		支障なし
18	下条68	農家住宅建設	H7.12.13	991m ²	五歩一遺跡傍接地	標高約9.6mの水田		支障なし
19	坂越1216-2	農家住宅増築	H7.12.22	301m ²	坂越大沢遺跡 傍接地	標高約10mの畠地		支障なし
20	下条1237-2	農家住宅建設	H8.1.16	495m ²	未踏査地	標高約5mの水田		支障なし
21	西高木112-1外6筆	運送会社駐車場建設	H8.1.18	4,873m ²	未踏査地	標高約1.7mの水田		支障なし
22	三ヶ2440-4	駐車場及び商品販賣建設	H8.2.27	351m ²	未踏査地	標高約5.7mの空き地 盛土造成済み		支障なし
23	黒河字竹山3365-1	車庫兼物置建設	H8.2.27	77m ²	黒河西遺跡・黒河竹山遺跡傍接地	標高約11.3mの水田に 盛土後畠地		支障なし
24	下条537	住宅敷地拡張	H8.2.27	234m ²	二の井遺跡 傍接地	標高約8mの既存宅地 及び庭		工事立会
25	大江520-1	資材置場建設	H8.2.27	332m ²	HS-4遺跡内	標高約3.2mの水田		試掘調査必要
26	青井谷字鳥越5,000外5筆	資材置場建設	H8.2.27	1,455.91m ²	丸山古墳傍接地	標高約13.5mの水田 一部盛土造成中		支障なし
27	太閤山1丁目78-1外3筆	宅地造成	H8.3.6	1,170.75m ²	中山中遺跡傍接地	植樹地		一部試掘調査必要

計 27件 延べ 21日間 対象面積 83,761.66m²

第1表 分布調査一覧

3. 試掘調査

平成7年度に実施した試掘調査は15遺跡19件であった。その結果、本調査が必要になった調査は5件あり、うち1件は小範囲だったため、引き続き調査を行い終了した。残りの4件については、次年度に対応することになった。

No	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	加茂社 (381028)	三ヶ2731-1	宅地造成	H7.5.1 (延べ1日)	981m ²	90m ²	集落			支障なし
2	三野 (381272)	野手33	駐車場建設	H7.5.19 (延べ1日)	667m ²	33m ²	散布地		弥生土器	支障なし
3	白石IV (381014)	白石988	資材置場建設	H7.5.28 (延べ1日)	934m ²	6m ²	散布地			支障なし
4	伊勢領 (381027)	三ヶ2343-1	公民館増築	H7.8.4 (延べ1日)	95m ²	10m ²	散布地	溝3条		支障なし
5	黒河西山 (381041)	黒河字竹山 3361-1外	駐車場建設	H7.8.23 (延べ1日)	1,762.6m ²	37m ²	散布地 製鉄		須恵器	支障なし
6	中山中 (381035)	太閤山1-46	個人住宅建設	H7.9.12~9.21 (延べ6日)	660m ²	30m ²	集落	溝・土坑	弥生土器	支障なし(在存部分調査実施)
7-1	HS-04 (381004)	白石・鷺塚 大江151外	ふるさと農道 建設	H7.10.13 ~10.18 (延べ4日)	17,510m ²	1,262.5m ²	散布地	溝・土坑	縄文土器・弥生土器 須恵器・土師器・鉄滓 珠洲・中世土師器 輸入陶磁器・瓦質土器 瀬戸美濃・越中織戸 近世磁器・木製品	本調査必要 (2,200m ²)
7-2	鷺塚村中 (381010)	鷺塚781-1-B外	ふるさと農道 建設	H7.10.16 (延べ1日)	2,310m ²	87m ²	集落		弥生土器・土師器 珠洲・瓦質土器 輸入陶磁器・越中織戸	支障なし
7-3	愛宕 (381002)	三ヶ字愛宕 81-1外	ふるさと農道 建設	H7.10.23 ~10.24 (延べ2日)	3,080m ²	250.5m ²	散布地	大溝・土坑	弥生土器・碧玉岩・石斧 鏡裏器・既製・中世土器 輸入陶磁器・越中織戸 近世伊万里・銅製品	本調査必要 (1,400m ²)
7-4	HS-03 (381003)	三ヶ字愛宕 236-1外	ふるさと農道 建設	H7.10.24 (延べ1日)	2,360m ²	135m ²	散布地	溝・土坑	弥生土器・珠洲 越中織戸	本調査必要 (700m ²)
8	二の井I (381086)	下条670-1	個人住宅建設	H7.10.19 (延べ1日)	414m ²	33m ²	散布地	溝3条	弥生土器	支障なし
9	黒河竹山 (381065)	黒河字竹山 3309-1	個人住宅建設	H7.10.19 (延べ1日)	116m ²	3.3m ²	散布地			支障なし
10	HS-04 (381004)	戸破字若宮 3493-1	個人住宅建設	H7.10.30 (延べ1日)	253m ²	21m ²	散布地		陶器・漆器	支障なし
11	HS-04 (381004)	戸破字神田 4426-1外	親水公園建設	H7.10.31~11.2 (延べ3日)	3,450m ²	284m ²	散布地	溝・土坑	弥生土器・須恵器 珠洲・陶磁器	本調査必要 (開発区域全体)
12	水上 (381026)	三ヶ1837-1外 (一部大門町合)	資材置場建設	H7.11.7 (延べ1日)	761m ²	94m ²	散布地	溝8条・土坑 1基・柱穴状 ピット数基	弥生土器・土師器・須恵器 珠洲・中世土師器 木製品(下駄・曲木底板) 砥石・越中織戸・古錢	本調査必要
13	二の井II (381087)	下条721	工場建設	H7.11.7 (延べ1日)	448m ²	46m ²	散布地	溝・土坑	弥生土器・土師器・珠洲 中世土師器・陶磁器	本調査必要
14	針原東 (381025)	字崎字針原319外	資材置場及び 事務所建設	H8.1.19 (延べ1日)	1,500m ²	73.5m ²	集落	溝・土坑	弥生土器・陶磁器	支障なし
15	HS-04 (381004)	三ヶ字神山III 4599-1	掘削工事	H8.3.8 (延べ1日)	140m ²	140m ²	集落			支障なし
16	鷺塚村中 (381010)	鷺塚720-3	個人住宅建設	H8.3.22 (延べ1日)	495m ²	18.5m ²	集落		珠洲	支障なし
17	HS-04 (381004)	大江520-1	資材置場建設	H8.3.22 (延べ1日)	332m ²	41.5m ²	集落	溝2条	弥生土器・陶磁器	支障なし
18	HS-04 (381004)	大江521-1外1筆	資材置場建設	H8.3.22 (延べ1日)	801m ²	69m ²	集落	土坑	弥生土器・陶磁器	支障なし
19	中山中 (381035)	太閤山1-80-1	宅地造成	H8.3.28~3.28 (延べ3日)	941m ²	40m ²	集落		縄文土器・石器・須恵器 近世陶磁器	支障なし
計	15遺跡19件			延べ 29日間	対象面積 40,010.6m ²	発掘面積 2,804.8m ²				

第2表 試掘調査一覧

加茂社遺跡（No.1）

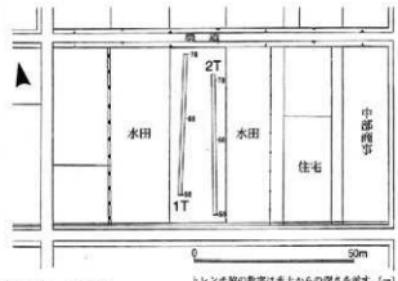
遺跡は下条川右岸の標高約5mに立地し、現況は水田である。調査は民間宅地造成事業に伴い実施した。調査区は埋蔵文化財包蔵地の最南端部に位置する。調査の結果、水田耕作土下50cm~70cmに堆積している淡黄灰色土の地山面で、遺構確認したものの遺構や遺物は全く確認できなかった。今回の対象地において保護措置を要する遺跡の広がりは見られなかった。



第3図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 1 1トレンチ（東から）



第4図 発掘区

伊勢領遺跡（No.4）

遺跡は下条川左岸の標高約45mの微高地上に立地する。周辺では平成2~4年にかけて大規模な宅地造成に先立つ発掘調査が行われ、縄文時代中期、弥生時代終末~古墳時代初頭、古代・中世の遺構や遺物が確認されている。

調査区の北側に弥生時代の大溝または下条川が蛇行していた当時の川跡と考えられる崖地の一部が確認されたが、遺物の出土はなかった。



第5図 発掘区



P.L. 2 1トレンチ（溝：南から）



P.L. 3 埋め戻し後

三野遺跡 (No.2)

遺跡は下条川右岸沿いの標高約20mに立地する。調査区は、既に一部が盛土され汚水処理槽が埋設されており、全域に渡るトレンチ掘削ができなかった。遺構は検出されなかったが、弥生土器が2点出土した。南隣での試掘結果も検討し、遺跡の広がりは見られないものと考える。



第7図 発掘区

白石IV遺跡 (No.3)

遺跡は新堀川右岸沿いの標高約1.5mに立地する。淡灰黄褐色シルトの地山面で、遺構検出をしたもののみ構造・遺物は確認されなかった。今回の対象地において保護措置を要する遺跡の広がりは見られなかった。



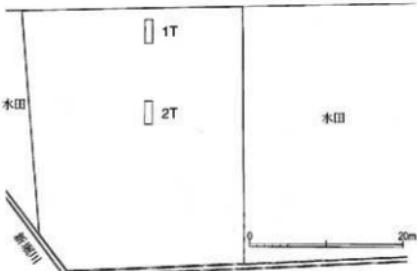
第6図 調査位置図 (1:10,000)



PL. 4 出土遺物



第8図 調査位置図 (1:10,000)



第9図 発掘区



PL. 5 土層断面 (2トレンチ)

黒河西山遺跡 (No. 5)

対象地の現況は水田で、標高約10.5mに立地する。昭和63年に西方約100m地点で、古代の炭焼窯4基・須恵器窯1基の生産遺構が見つかっている。

暗褐色又は暗緑灰色土の地山面において、遺構は検出できなかった。南側の県道沿いから北側に向って低くなり、旧水田面の地点で一段低い地形となっている。遺物は、この水田耕作土中から須恵器片が出土している。



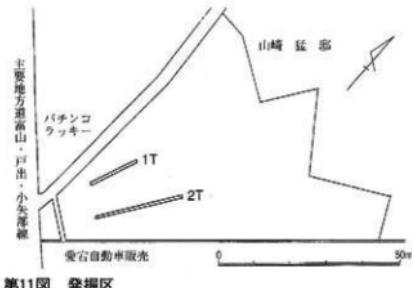
第10図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 6 出土遺物

黒河竹山遺跡 (No. 9)

遺跡は射水丘陵の北東端に位置し、幅約200mの浅い谷間に立地している。調査区周辺では過去の試掘調査より、奈良～平安時代の製鉄関連の遺物が出土し、丘陵部で多く検出された製鉄遺跡との関連が予想される地域でもある。今回の調査は、現況地盤より120cm～140cm下に堆積する黄褐色土の地山面において、遺構検出を試みたものの遺構・遺物は確認されなかった。調査区南側の水路で上師器片1点を表面採集した。



第11図 発掘区



P.L. 7 出土遺物



P.L. 8 遺構検出面 (2トレンチ)

中山中遺跡 (No.6)

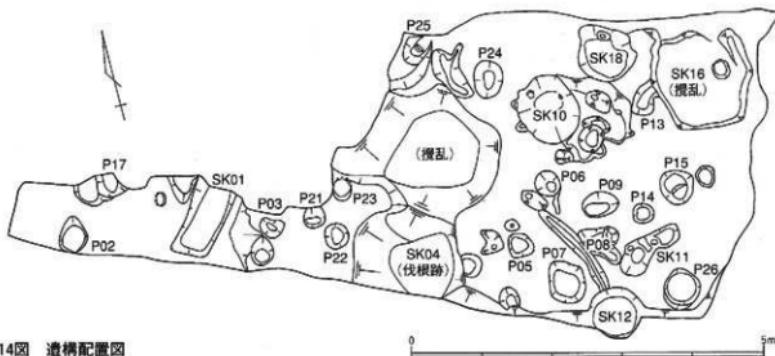
遺跡は射水丘陵北端の標高約9mに立地している。検出した溝・土坑から弥生土器が出土したため、周辺を拡張し遺構を精査したうえで、遺構平面図化・遺物出土状況の写真撮影等を行い記録保存とした。



P.L. 9 遺物出土状況



第13図 調査位置図 (1:10,000)



第14図 遺構配置図

中山中遺跡 (No.19)

調査区には多くの植栽があり、重機の搬入路が確保できなかつたため、人力によるトレンチ掘削を実施した。遺構と確認できるものはなかつたが、縄文土器・石錘・須恵器・近世陶磁器が出土した。



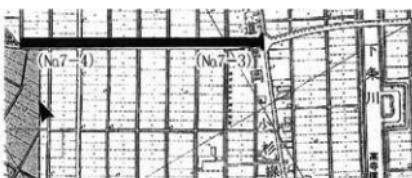
P.L. 10 土層断面



第15図 発掘区

愛宕遺跡 (No.7-3)

調査区の33・34トレーナーでは、水田耕作土直下から深さ約60cmまでの暗灰黒褐色粘質土中から大量の弥生土器が出土している。これらの出土した箇所は、弥生時代の大溝の縁辺部と考えられ、東側がより深くなっている。この結果、県道堀岡・小杉線西側の約1,400m²においては本調査が必要である。



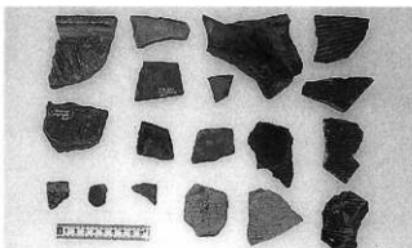
第16図 調査位置図 (1:10,000)



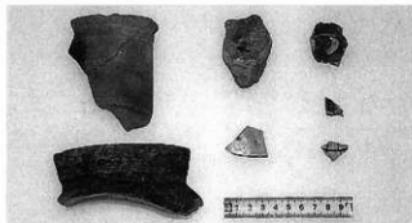
P.L. 11 出土遺物

HS-03遺跡 (No.7-4)

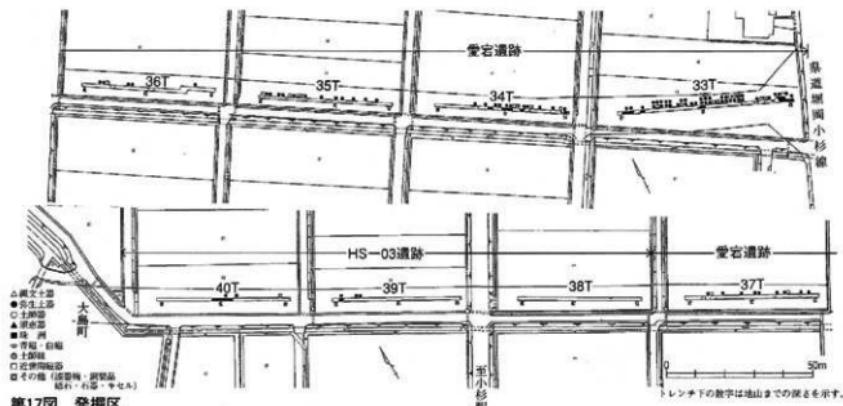
調査区の39・40トレーナーでは、水田耕作土下約15cmで青灰色シルトの地山となり、暗茶褐色土を含む幅約1.5m～3.5mの弥生時代の溝2条を検出している。この溝から小型壺の完形品や高壺・甕が出土している。この結果、隣接している大島町との境界東側の約700m²においては本調査が必要である。



P.L. 12 出土遺物



P.L. 13 出土遺物



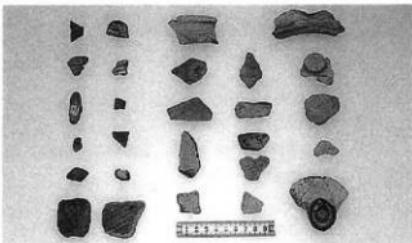
第17図 発掘区



第18図 調査位置図 (1:20,000)

HS-04遺跡 (No. 7-1)

調査区の21~24トレンチの地山は、青灰色シルト又は青灰色砂層となっている。この地山に淡黒褐色砂質土で埋まる幅約30cm~100cmの溝を数条確認している。この溝から弥生土器・須恵器・珠洲が出土しているため、弥生時代・平安時代~中世の遺構であると考えられる。この結果、大江地内の総合体育センター北側の約2,200m²においては本調査が必要である。



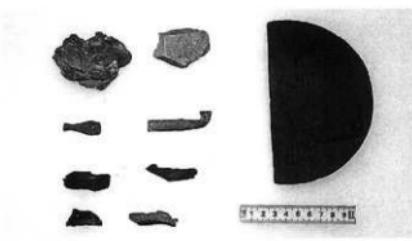
P L. 14 出土遺物



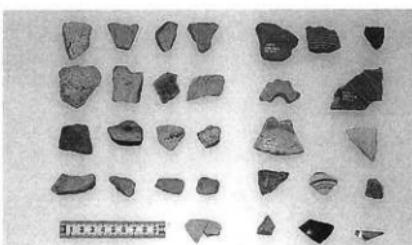
P L. 15 出土遺物

鶴塚村中遺跡 (No. 7-2)

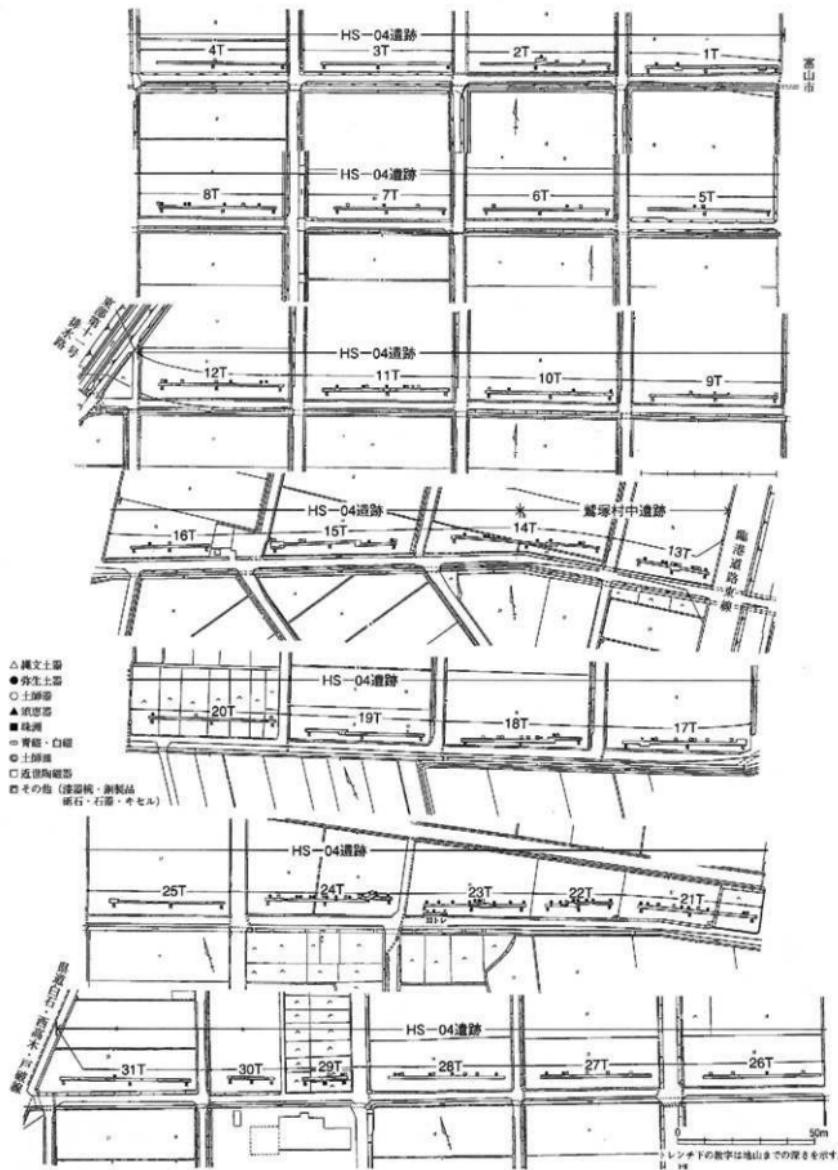
遺跡北端部の標高約2.1mに立地している。調査区の13・14トレンチの地山は灰褐色粘質土であり、溝や土坑を確認している。出土遺物は弥生土器・土師器・瓦質土器・珠洲・輸入陶磁器・越中瀬戸・砥石・木製品である。遺物は遺構外出土で散発的であることから、遺跡の縁辺部にあたり集落が形成されなかった場所と考えられる。



P L. 16 出土遺物



P L. 17 出土遺物



第19図 発掘区

二の井 I 遺跡 (No.8)

遺跡は下条川右岸の標高約8mに立地する。土層は上から1層が淡黒褐色の水田耕作土、2層が黒茶褐色の自然堆積土、3層が黄灰褐色の地山である。検出した遺構は、溝3条・土坑2基であり、そのうち遺物を伴った遺構は溝1条であった。遺物は弥生土器が出土している。遺構・遺物とともに希薄であることから、遺跡の中心は調査区より東側に遺存するものと考える。



第20図 調査位置図 (1:10,000)



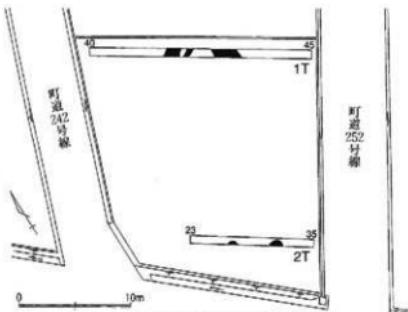
P.L. 18 出土遺物

二の井 II 遺跡 (No.13)

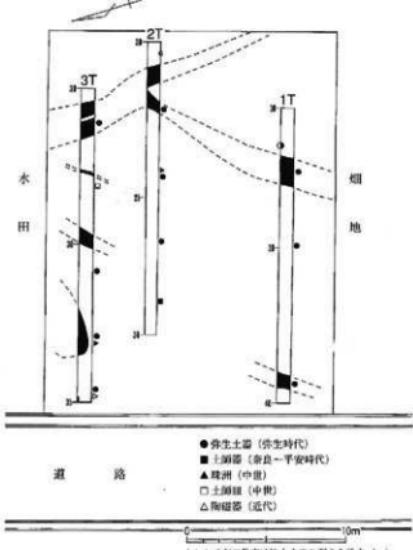
遺跡は下条川右岸の標高約8.5mに立地する。調査区の地山は黄灰褐色シルトである。この地表面に黒褐色シルトで埋まる溝5条・土坑4基を確認し、大半が遺物を伴う遺構であった。遺物は弥生土器・土師器・珠洲・中世土師器・近代陶磁器が出土している。この結果、調査区内において弥生時代を中心とした遺跡が、良好に遺存していると考えられるため、本調査が必要である。



P.L. 19 弥生土器出土状況



第21図 発掘区



第22図 発掘区

HS-04遺跡 (No10)

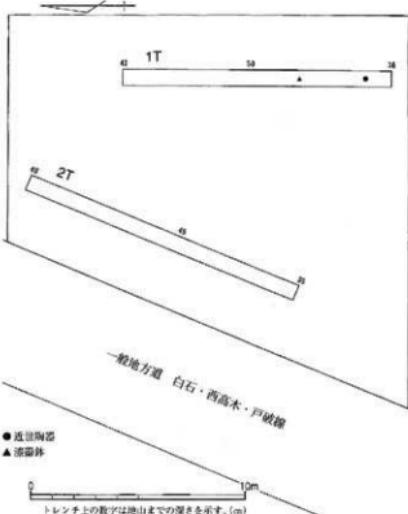
遺跡は下条川右岸の標高約3.1mに立地する。土層は上から1層が水田耕作土、2層が淡黒褐色の自然堆積土、3層が灰色粘質土又は青灰色粘質土の地山である。地山面までは現況地盤より35cm~50cmを測る。遺構は確認されなかったが、近世陶器と漆器鉢の2点が1トレンチから出土している。保護を必要とする埋蔵文化財の広がりは見られなかった。



P.L. 20 出土遺物

HS-04遺跡 (No15)

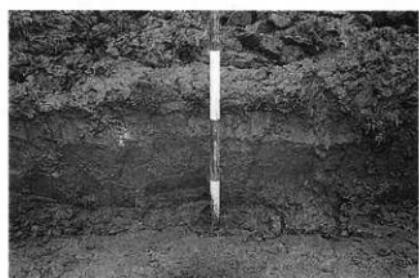
遺跡は下条川右岸沿いの標高約2.4mに立地する。土層は上から1層が茶褐色の水田耕作土(0~15cm)、2層が灰褐色粘質土(15~20cm)の自然堆積土、3層が暗灰褐色又は赤褐色粘質土の地山である。今回の調査では遺構・遺物は全く確認されなかった。南側隣接地の試掘調査より、弥生時代終末期から古墳時代初頭と中世の2時期の遺構が確認されているが、調査区は空白地帯となっている。



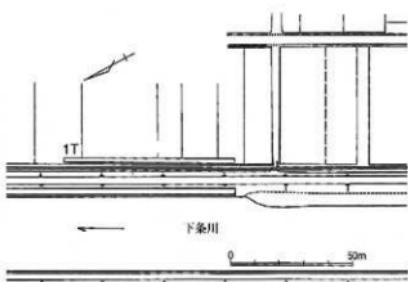
第23図 発掘区



第24図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 21 土層断面



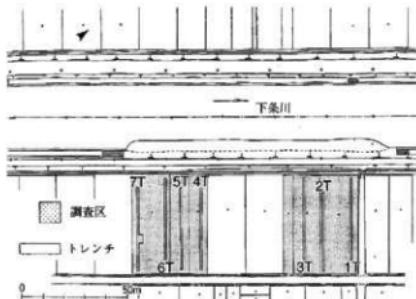
第25図 発掘区

HS-04遺跡 (No11)

遺構は、溝や井戸と思われる円形の遺構が確認された。遺物は、弥生土器・須恵器・珠洲・中世陶器・近世陶磁器が出土した。出土状況から弥生時代と中世を主体とする遺跡と考えられる。計画地5,000m²のうちの買取済約3,450m²を対象に調査を行った結果、全域に亘り本調査の必要がある。残りの約1,550m²についても、調査状況から本調査の必要があると考えられる。



第26図 調査位置図 (1:10,000)



第27図 発掘区

水上遺跡 (No12)

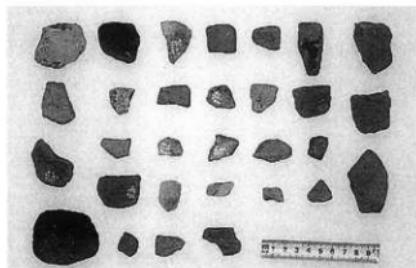
遺跡は神楽川右岸の標高約6.5mに立地する。調査区の地山は黄灰色シルトである。検出した遺構は溝8条・土坑1基で、大半が遺物を伴うものであった。遺物は弥生土器・須恵器・土師器・珠洲・中世土師器・超中瀬戸・差巻下駄・古錢等が出土している。この結果、奈良～平安時代を中心とした遺跡が、良好に遺存していると考えられるため、本調査が必要である。



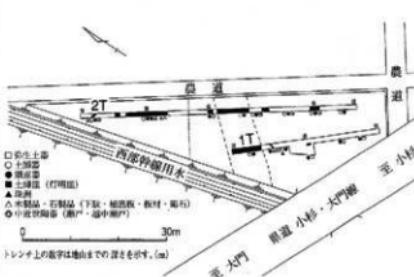
P L. 22 出土遺物



第28図 調査位置図 (1:10,000)



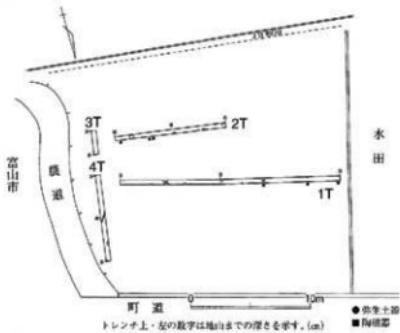
P L. 23 出土遺物



第29図 発掘区

針原東遺跡 (No14)

対象地の現況は畠地で、標高約2.5mに立地する。平成3年にJ.R北陸本線南側で、15世紀代中世在地領主の方形館跡が見つかっている。遺構は溝2条・土坑16基が確認され、遺物は弥生土器9点・近世陶磁器2点が出土した。遺物を伴う遺構はなかった。



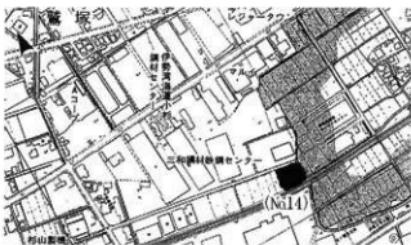
第31図 発掘区

鷲塚村中遺跡 (No.16)

遺構は確認されなかったが、青灰色シルトの地山直上から室町時代の珠洲すり鉢が1点出土している。



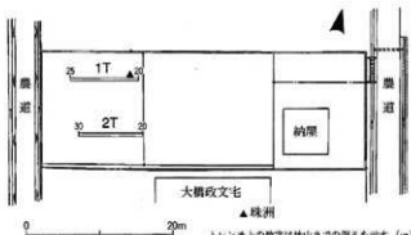
第32図 調査位置図 (1:10,000)



第30図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 24 出土遺物



第33図 発掘区



P.L. 25 出土遺物



P.L. 26 作業風景

HS-04遺跡 (No.17・18)

土層は上から1層が淡黒褐色の水田耕作土(10~15cm)、2層が黒褐色粘質土(25~30cm)の自然堆積土、3層が青灰色シルトの地山である。遺構は溝2条・土坑1基が検出され、遺物は弥生土器・近世陶磁器が出土している。



第34図 調査位置図 (1:10,000)



P L. 27 作業風景



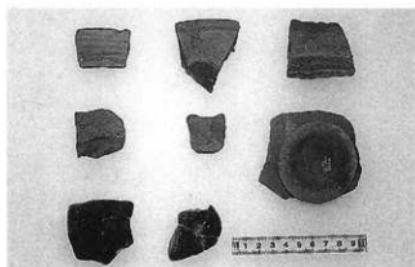
第35図 発掘区



P L. 28 発掘後 (東から)



P L. 29 埋め戻し後 (西から)



P L. 30 出土遺物



P L. 31 出土遺物

4. 本 調 査

平成7年度に実施した本調査は、民間会社の福利厚生施設建設に伴う丸山古墳の調柜1件であった。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物
1	丸山古墳	青井谷字丸山1088-1外1筆 (381190)	民間会社福利厚生施設建設	H17.4.17~7.5 (延べ49日)	400m ²	古墳	円墳1基	土師器
計	1 遺跡1件			延べ 49日間	発掘面積 400m ²			

第3表 本調査一覧

丸山古墳 [No.1]

古墳は南北軸約13.4m、東西軸約11.2m、墳高約2mの円墳で、埋葬施設の検出は1基である。墳丘は土盛りされたものではなく、尾根頂部を水平に削り墳丘頂部を作り出している。周溝は2条巡らされており、周溝1は西へ伸びる尾根を南北に切る。長さ約11m、幅2.1m~3.1m、深さ約0.3mで、墳丘の高まりを強調している。埋葬形態は、主体部床面の立ち上がりが丸みをもつことから、潮竹形木棺ではないかと考える。



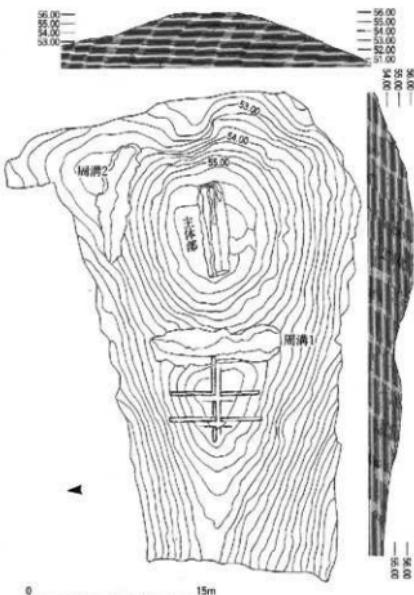
第36図 調査位置図 (1:10,000)



P.L. 32 主体部掘削状況



P.L. 33 埋葬施設（東から）



第37図 遺構実測図

5. 普及・活用

(1) 埋蔵文化財整理室での作業

整理室では、平成3年度実施の赤坂C遺跡（太閤山カントリークラブ）、平成5年度実施の天池C遺跡（小杉インターパーク）の復元・実測の他、今年度調査で出土した遺物の水洗・注記・復元・彩色などの整理作業を行った。

(2) 埋蔵文化財整理室の見学

平成7年度には次の見学があった。4月21日太閤山小学校（70名）、5月16日文教厚生委員会視察（30名）、6月14日生涯学習まちづくり実践講座金山地区（15名）、8月10日小学生夏休み企画（40名）、このほか9月20日～27日において、小杉町考古展—飛鳥時代の土器づくりを開催し、320名の見学があった。

(3) 報告書の刊行

平成7年度事業として、小杉町教育委員会が1996年3月に刊行したものは以下のとおりである。

- ① 『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1995年度』（A4版18頁）



PL. 34 注記作業



PL. 35 拓本作業



PL. 36 復元作業



PL. 37 木製品真空パック作業

分布調査				試掘調査				本調査			
年度	件数	対象面積 (m ²)	延べ調査 日数	件数	対象面積 (m ²)	延べ調査 日数	件数	調査面積 (m ²)	延べ調査 日数		
5	12	16,865	7	4	13,976	15	6	12,286	362		
6	17	114,806	14	8	103,752	18	3	5,304	148		
7	27	83,761	21	19	40,010	29	1	400	49		

第4表 小杉町埋蔵文化財発掘調査件数などの年度別推移（町教委主体調査）

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1995年度

1996(平成8)年3月31日 発行

編集・発行 小杉町教育委員会

〒939-0393

富山県射水郡小杉町戸破1511

TEL (0766)56-1511

印 刷 日興印刷株式会社

著日月未眞參學會

一九九五年三月

一九九五年三月

日本古文書文庫第一集